

取組の柱④：「海」から「空」へ広がる安全保障・安全利用の取組

事例⑤：航空分野における協力の推進（環境、新技術など）

1. 基本的な考え方

- インド太平洋が成長を続け世界経済を牽引していくためには、国際的な人流・物流を担う国際航空分野での協力が必要。
- 同分野は、世界規模の課題に直面。航空の安全・セキュリティの確保やテロ対策といった分野にとどまらず、環境対策などの取組も進められている。また、ドローン、空飛ぶクルマなどの新技術への対応も喫緊の課題。
- 日本はこれまで技術開発支援等、開発途上国への支援も行ってきている。引き続きこうした国々にも配慮した形で、FOIPの価値観を共有する国々と連携・協調しながら、国際的なルール作りに関与し、その議論を牽引していくことが重要。

⇒価値観を共有する各国との連携・協調の下、国際機関も活用しつつ、航空分野における新たな時代の国際秩序作りをリード

2. 今後の具体的な取組

- 価値観を共有する主要国との航空分野における連携強化
(例) 環境分野（航空脱炭素化の取組、SAFの利用拡大等）、新技術（航空管制、空港技術、ドローン・空飛ぶクルマ等）等に関する航空当局間での協力体制の確立・協力の推進
- 国際機関等における議論の牽引
(例) 国際民間航空機関（ICAO）等において、国際的なルール作りに関する議論を牽引

価値観を共有する主要国との航空分野における連携強化



左：日星両国の航空当局間の協力覚書の締結（令和4年12月）
（外国航空当局と結ぶ初の脱炭素化に関わる取組に関する覚書）



右：日仏両国の航空当局間での情報・意見交換（令和4年12月）
（航空政策に関する情報交換や意見交換を行う「協力作業部会」の再開や両国の専門家による交流の実施に合意）

国際機関等における議論の牽引

ICAO等の国際的な場において、新たなルール作りに関する議論を牽引



秋本外務大臣政務官とシャキターノICAO理事会議長との会談
（令和5年1月）



【LTAG-TG議長】

吉村 源（国土交通省航空局 在籍）



ICAO総会における豊田国土交通副大臣の代表演説
（令和4年9月）

国際航空分野の脱炭素に関する長期目標検討のためのタスクグループ（LTAG-TG）の議長として、報告書を取りまとめ（令和4年3月）